

どうする!?

どう考える!?

表示指定成分

“表示指定成分”とは、厚生労働省が、1977年に起きた『黒皮病裁判』をめぐる化粧品公害事件をきっかけに、旧厚生省時代の1980年にその毒性を認めた、化粧品に含まれる103種類の成分のことです。

かつては、必ず表示しなければならない成分だったためにそう呼ばれましたが、2001年4月からは全成分の表示が義務付けられたため、現在は“旧表示指定成分”とも呼ばれています。

表示指定成分をめぐるさまざまな論議がありますが、美容業界においては、多くの企業が共通のスタンスをとっています。それはおおよそ次のようなものです。

「ひとくちに表示指定成分といってもさまざまなものがあり、アメリカではすでに使用が禁止されている危険なものから、食品添加物としても認められているほぼ安全なものまでがあります。もともと、表示指定成分に指定された化学物質のほとんどは、高コストで入手が困難で品質安定性が低い天然成分に代わるものとして開発された、低コストで簡単に製造できる品質安定性が高い成分です。公共機関が毒性を認めたといっても、ほぼ安全なものまでを排除したのでは、コストや品質の面で問題が生じてしまいます。そのため、弊社では一部の旧表示指定成分を使用しているのです」

しかし、私たち、ココ・ポーテグループのスタンスは違います。たとえどんなに低コストで簡単に製造できる品質安定性が高い成分であったとしても、ほんのわずかでも肌や体に有害となる疑いがある成分は、使用を控えるべきではないかと私たちは考えるからです。なぜなら、たとえ100人中99人は大丈夫でも、たった1人でもダメージを受けている人がいるのだとしたら、その事実を決して見過ごせないと思うからです。

私たちは、創業からの9年間の営業活動を通じた経験のなかで、旧表示指定成分の入った化粧品の使用をやめていただくだけで、長年にわたって悩んでいらっしやったお客様の肌トラブルが、確実に改善した

例をたくさん見てきました。

もちろん、肌の状態には個人差がありますから、肌トラブルの原因のすべてが旧表示指定成分にあるとは限りません。でも、もし、あなたが今、深刻な肌トラブルを抱えていらっしやるのだとしたら、一度は旧表示指定成分を疑ってみることをオススメします。

ア行

I P M (ミリスチン酸イソプロピル)

化粧品用油性原料の代表的なものである。色素、香料などの溶剤、保留剤としても使用される。毒性は弱い、アレルギー症状を引き起こす可能性がある。

青色0号

「タール色素」を参照。

赤色0号

「タール色素」を参照。

アゾ色素

「タール色素」を参照。

安息香酸及びその塩類

化粧品の防腐剤として使用される。皮膚・粘膜・眼・鼻・のどを刺激する。飲み下すと胃腸障害などの症状があらわれる。多量だと強い急性毒性がある。

E D T A (エドト酸及びその塩類 / エチレンジアミン四酢酸)

硬水軟化の目的、あるいは透明化の目的で、化粧石けんや化粧水などに配合される。皮膚・粘膜を刺激する。アレルギー症状・血圧低下・腎臓障害などを引き起こす。染色体異常・変異原性(バクテリアの突然変異)の報告がある。

イクタモール

緩和な局所刺激性、静菌性、収れん性があり、薬用化粧品、薬用石けんなどに使用される。一般化粧品に用いることは少ない。皮膚・粘膜を刺激する。飲み下すと胃腸障害・下痢などの症状があらわれる。

イソプロピルメチルフェノール(イソプルピルメチルエーテル)

強力な消毒殺菌剤である。各種の殺菌消毒剤の効力判定の際の尺度である、石炭酸係数の標準となっている。皮膚発疹・吹き出物などを引き起こす。飲み下すと神経失調などの症状があらわれる。

医薬品に使用することができるタール色素を定める省令に掲げるタール色素

医薬品に使用することができるタール色素を定める省令に掲げるタール色素薬事法によって安全なタール色素のみを指定し、品質に関する規格が定められている。タール色素のうち、アゾ色素はアレルギー反応を起こし、黒皮病の原因とされる。発がん性・変異原性を示すものもある。

る。キサンチン色素は、皮膚への刺激・発赤などの強い毒性がある。変異毒性があり、発がん性が疑われている。

ウンデシレン酸及びその塩類

真菌類の発育阻止作用がある。皮膚を衛生的に保つ目的で、タルカムパウダーに配合される。毒性は弱い、アレルギー症状を引き起こす可能性がある。飲み下すとめまい、頭痛、腹痛などの症状があらわれる。

ウンデシレン酸モノエタノールアミド

石けん、シャンプーなどに殺菌、防腐剤として用いられる。毒性は弱い、アレルギー症状を引き起こす可能性がある。飲み下すとめまい、頭痛、腹痛などの症状があらわれる。

エチレンジアミン四酢酸(エドト酸及びその塩類 / E D T A)

硬水軟化の目的、あるいは透明化の目的で、化粧石けんや化粧水などに配合される。皮膚・粘膜を刺激する。アレルギー症状・血圧低下・腎臓障害などを引き起こす。染色体異常・変異原性(バクテリアの突然変異)の報告がある。

エドト酸及びその塩類(エチレンジアミン四酢酸 / E D T A)

硬水軟化の目的、あるいは透明化の目的で、化粧石けんや化粧水などに配合される。皮膚・粘膜を刺激する。アレルギー症状・血圧低下・腎臓障害などを引き起こす。染色体異常・変異原性(バクテリアの突然変異)の報告がある。

塩化アルキルトリメチルアンモニウム

陽イオン性界面活性剤である。毛髪に柔軟性を与え、帯電を防止する作用がある。副交感神経を刺激する。胃痙攣・嘔吐・発疹などを引き起こす。

塩化ジステアрилジメチルベンジルアンモニウム

陽イオン性界面活性剤である。毛髪に柔軟性、平滑性を与え、感触をよくし、帯電を防止することからヘアリンズなどに用いられる。毒性は弱い、アレルギー症状を引き起こす可能性がある。高濃度だと皮膚・粘膜を刺激する。

塩化ステアрилジメチルベンジルアンモニウム

陽イオン性界面活性剤である。毛髪への吸着がよく、静電気の帯電を防止する性質がある。毒性は弱い、アレルギー症状を引き起こす可能性がある。高濃度だと皮膚・粘膜を刺激する。

塩化ステアリルトリメチルアンモニウム

陽イオン性界面活性剤である。毛髪に吸着されて帯電防止作用、毛髪をしなやかにする柔軟作用を有する。

毒性は弱い、アレルギー症状を引き起こす可能性がある。高濃度だと皮膚・粘膜を刺激する。

塩化セチルトリメチルアンモニウム

陽イオン性界面活性剤である。毛髪に吸着し、帯電防止性、柔軟性を与える。皮膚・粘膜・眼を刺激する。多量に飲み下すと致死性がある。

塩化セチルピリジニウム

陽イオン性界面活性剤である。殺菌作用、防臭作用を利用して歯垢予防液などに用いられることもある。皮膚・粘膜・眼を刺激する。多量に飲み下すと致死性がある。

塩化ベンザルコニウム(ベンザルコニウム塩酸塩)

陽イオン性界面活性剤で、強い殺菌力を有する。眼に入るとアレルギー性結膜炎の報告あり。

塩化ベンゼトニウム

陽イオン性界面活性性で、強い殺菌作用を有する。殺菌作用、防臭作用を利用して、制汗剤などに配合されることもある。毒性は弱い、アレルギー症状を引き起こす可能性がある。飲み下すと嘔吐・痙攣・虚脱・昏睡などの症状があらわれる。

塩化ラウリルトリメチルアンモニウム

陽イオン性界面活性剤である。かなり強い殺菌力を持っている。副交感神経を刺激する。胃痙攣・嘔吐・発疹などを引き起こす。

塩化リゾチーム

ムコ多糖分解作用を有する酵素で、卵白から得られる塩基性ポリペプチドである。抗炎症剤として、ニキビの治療、ひげそりあとなど特殊な目的の化粧品へ利用される。発疹・食欲不振・胃部不快感・嘔吐・下痢・口内炎などを引き起こす。

塩酸アルキルジアミノエチルグリシン

両性界面活性剤であり、強力な殺菌、消毒、洗浄効果を有する。外用剤に広く用いられる。発育停滞・クレアチン尿症・白血球減少などを引き起こす。

塩酸クロルヘキシジン

合成抗菌剤でヒピデンの名で知られている。持続抗菌作用を必要とされる場合に用いると有効である。強いアルカリ反応を引き起こす。

塩酸ジフェンヒドラミン

抗ヒスタミン剤であり、アレルギー疾患に用いられる。皮膚の過敏反応を引き起こす。飲み下すと嘔吐・ぜんそく性発作などの症状があらわれる。

AS(ラウリル硫酸塩類)

陰イオン性界面活性剤である。油脂を乳化する作用を持ち、洗浄作用、起泡性があり、シャンプーなどに利用されている。皮膚が乾燥して荒れ

る。毛髪の発育障害・視力低下・白内障などを引き起こす。

液状ラノリン

ラノリンから固形部分を除いた液状物質で、エモリエント効果が有り、ラノリンよりも皮膚に対しての浸透性、拡散性、柔軟作用がある。接触性皮膚発疹・アレルギー性皮膚炎を引き起こす。

エストローゲン

「ホルモン」を参照。

エストラジオール

「ホルモン」を参照。

エチニエストラジオール

「ホルモン」を参照。

LAS(直鎖型アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム)

中性洗剤である。パルバス、シャンプー、化粧石けんなどに使用されている。皮膚が乾燥し荒れる。湿疹の原因物質とされる。催奇形性の疑いがある。

黄色0号

「タール色素」を参照。

オキシベンゾン

紫外線吸収剤である。毒性は弱い、アレルギー症状を引き起こす可能性がある。飲み下すと吐き気などの症状があらわれる。多量だと急性致死毒性がある。

オルトフェニルフェノール(OPP)

殺菌防腐剤である。皮膚・粘膜を腐食する。飲み下すと肝臓障害などの症状があらわれる。発がん性がある。

力行

褐色201号

「タール色素」を参照。

カテコール

強い還元力が利用され、染毛剤などに抗酸化剤として用いられる。皮膚を腐食する。飲み下すと痙攣、ひきつけなどの症状があらわれる。

還元ラノリン

保水性、乳化性をもち、化粧品の乳化剤として用いられる。エモリエント剤としても使用される。接触性皮膚発疹・アレルギー性皮膚炎を引き起こす。

カンタリスチンキ

チンキ剤である。毛根刺激剤、頭皮刺激剤、止痒剤としてヘアローション、ヘアトニックなどに配合される。皮膚・粘膜を刺激する。充血・熱感を生じる。多量に飲み下すと致死性がある。

キサントン色素

「タール色素」を参照。

グアイアズレン

皮膚、口腔内の消炎作用、抗菌・抗カビ作用、そのほか紫外線吸収作用もある。毒性は弱い、アレルギー症状を引き起こす可能性がある。

グアイアズレンスルホン酸ナトリ

ウム

グアイアズレンをスルホン化して得られる水溶性誘導体。抗炎症作用がある。毒性は弱い、アレルギー症状を引き起こす可能性がある。

グルコン酸クロルヘキシジン

持続性の強力な皮膚殺菌消毒剤、器具消毒剤として使用されている。毒性は弱い、アレルギー症状を引き起こす可能性がある。まれに発疹・めまいなどの過敏症状があらわれる。

クレゾール(クロルクレゾール)

殺菌力が強く殺菌薬、防腐薬として用いられる。皮膚発疹・吹き出物などを引き起こす。飲み下すと消化不良・神経失調・黄疸などの症状があらわれる。

クロラミンT

殺菌剤として石けん、シャンプー、リンスなどに使用される。皮膚・粘膜を刺激する。アレルギー反応を引き起こす。

クロルキシレノール

殺菌、防腐剤である。皮膚・粘膜を刺激・腐食する。致死性・発がん性がある。

クロルクレゾール

防腐剤として、プロテインシャンプーやベビー用品に使用される。毒性は弱い、アレルギー症状を引き起こす可能性がある。

クロルフェネシン

殺菌防腐剤として使用される。毒性は弱い、アレルギー症状を引き起こす可能性がある。

ククロブタノール

各種の製剤の防腐薬として使用されている。また麻酔作用もある。皮膚を刺激する。飲み下すと嘔吐などの症状があらわれる。多量だと精神錯乱・心臓機能低下を引き起こす。

クロルヘキシジン

「グルコン酸クロルヘキシジン」を参照。

5-ククロ-2-メチル-4-イソチアゾリン-3-オン(2-メチル-4-イソチアゾリン-3-オン)

殺菌、防腐の目的で洗い流す化粧品(シャンプー、リンス、石けん、洗顔料)に使用される。毒性は弱い、アレルギー症状を引き起こす可能性がある。

硬質ラノリン

ラノリンから液状ラノリンを除いた口紅様の物質である。口紅やポマードなどに使用される。接触性皮膚発疹・アレルギー性皮膚炎を引き起こす。

黒色401号

「タール色素」を参照。

香料

毒性は弱い、アレルギー症状を引き起こす可能性がある。

サ行

酢酸コルチゾン

「ホルモン」を参照。

酢酸トコフェロール(dl - トコフェロール)

ビタミンE誘導体の一つである。皮膚の血行を盛んにして皮膚の老化を防止する作用を持つといわれる。毒性は弱い、アレルギー症状を引き起こす可能性がある。

酢酸ポリオキシエチレンラウリルエーテルラノリンアルコール(酢酸ポリオキシエチレンラノリンアルコール)

非イオン性界面活性剤である。乳化剤、皮膚調整剤として使用される。毒性は弱い、アレルギー症状を引き起こす可能性がある。

酢酸ラノリン

ラノリンのアセチル化物である。エモリエント性を有し、多くの化粧品に配合される。接触性皮膚発疹・アレルギー性皮膚炎を引き起こす。

酢酸ラノリンアルコール

ラノリンアルコールをアセチル化して得たアセチル化物である。エモリエント効果を有し、各種化粧品に用いられる。接触性皮膚発疹・アレルギー性皮膚炎を引き起こす。

サリチル酸及びその塩類

弱い殺菌力を有し、化粧品には防腐剤として用いられる。皮膚・粘膜を刺激・腐食する。発疹・角膜剥離を引き起こす。飲み下すと致死性がある。

サリチル酸フェニル

紫外線吸収剤として、各種化粧品に使用される。皮膚・粘膜を刺激・腐食する。発疹・角膜剥離を引き起こす。多量に飲み下すと致死性がある。

ジソプロパノールアミン

石けん乳化の中和剤として用いられる。石けん、シャンプー、リンスなどに用いられる。皮膚・粘膜を刺激する。

ジエタノールアミン

中和剤として、石けん、シャンプー、リンスなどに用いられる。眼・皮膚・粘膜を刺激する。

ジエチルスチルベストロール

「ホルモン」を参照。

シノキサート

紫外線吸収剤として使用される。アレルギー性皮膚発疹を引き起こす。

ジブチルヒドロキシトルエン(BHT)

酸化防止剤である。皮膚炎・過敏症を引き起こす。飲み下すと体重低下・脱毛・異常行動などの症状があらわれる。発がん性の疑い・変異原性の報告がある。

ジブロピレングリコール(プロピレングリコール/P G)

保湿剤として用いられるほか、可溶性剤としても用いられる。また、抗

菌作用もある。皮膚毒性がある。飲み下すと内臓障害。染色体異常・赤血球減少などの症状があらわれる。1,3-ジメチロール-5,5-ジメチルヒダントイン(DMDMヒダントイン)

石けん、シャンプーなど、洗い流すことのできる製品だけに使用が認められている、殺菌・防腐剤である。毒性は弱い、アレルギー症状を引き起こす可能性がある。

臭化アルキルイソキノリニウム

殺菌、抗菌、抗カビ作用をもつ。フケ、カユミの原因となる菌に対する抗菌力を有する。毒性は弱い、アレルギー症状を引き起こす可能性がある。

臭化セチルトリメチルアンモニウム

陽イオン性界面活性剤である。殺菌作用、帯電防止作用、柔軟作用を有し、髪用製品、ヘアリンス、染毛剤などに用いられる。毒性は弱い、アレルギー症状を引き起こす可能性がある。飲み下すと嘔吐・痙攣・昏睡などの症状があらわれる。

臭化ドミフェン

陽イオン性界面活性剤で、殺菌作用を有する。殺菌消毒剤として使用されている。毒性は弱い、アレルギー症状を引き起こす可能性がある。

ショウキョウ(ショウガ)チンキ

ショウガの根茎をエタノールで溶出したチンキ剤である。毛根刺激、頭皮刺激、止痒効果があり、ヘアトニックなどに配合される。毒性は弱い、アレルギー症状を引き起こす可能性がある。

水素添加ラノリンアルコール

ラノリンアルコールに水素添加して得られる。ラノリンアルコール同様、高い保水力をもち、皮膚に対して保護作用および親和性がある。毒性は弱い、アレルギー症状を引き起こす可能性がある。

ステアリルアルコール

高級アルコールである。乳化安定助剤として、また皮膚を保護し、清潔に保つ作用を持ち、乳化製品の白色化を促進する。毒性は弱い、アレルギー症状を引き起こす可能性がある。

スルホン酸ナトリウム

「グアイアズレンスルホン酸ナトリウム」を参照。

セタノール

天然にはマッコウ鯨、ツチ鯨の脂質の主成分であるエステル中に含まれている。乳化安定作用を有し、また皮膚を保護し滑らかにして、温和なべとつかない光沢を与え、乳化製品の白色化を促進するので、クリーム、乳液類などに配合される。毒性は弱い、アレルギー症状を引き起こす可能性がある。

セチル酸ナトリウム(セチル硫酸塩)

各種クリーム、乳液などの乳化製品の乳化剤として使用される。発泡性、洗浄性が強い。皮膚・粘膜を刺激する。

セトステアリルアルコール

高級アルコールの混合物で、主としてセチルアルコールおよびステアリルアルコールからなる。毒性は弱い、アレルギー症状を引き起こす可能性がある。

セラック

樹液を吸ったラックカイガラムシの分泌物を精製したもの。皮膜形成剤としてヘアスプレーなどに使用される。毒性は弱い、アレルギー症状を引き起こす可能性がある。

ソルビン酸及びその塩類

防腐、防カビ剤として用いられる。敏感な皮膚・粘膜を刺激する。環境中の亜硝酸と反応して発がん性を生じる。

タ行

タール色素(アゾ色素・キサンチン色素・青色0号・赤色0号・黄色0号・褐色201号・黒色401号・橙0号・紫色201号・紫色401号)

医薬品に使用することができるタール色素を定める省令に掲げるタール色素薬事法によって安全なタール色素のみを指定し、品質に関する規格が定められている。タール色素のうち、アゾ色素はアレルギー反応を起こし、黒皮膚の原因とされる。発がん性・変異原性を示すものもある。キサンチン色素は、皮膚への刺激・発赤などの強い毒性がある。変異毒性があり、発がん性が疑われている。

橙0号

「タール色素」を参照。

チヌピンP

紫外線吸収剤である。皮膚炎などを引き起こす。

チモール

シソ科植物の揮発油の主成分で、強力な殺菌力を有する。殺菌剤として、歯みがき、マウスウォッシュ、シャンプー、ヘアトニックなどに用いられる。皮膚アレルギー反応を引き起こす。飲み下すと嘔吐・下痢・頭痛・循環器障害などの症状があらわれる。

直鎖型アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム(LAS)

中性洗剤である。バブルバス、シャンプー、化粧石けんなどに使用されている。皮膚が乾燥し荒れる。湿疹の原因物質とされる。催奇形性の疑いがある。

チラム

殺菌剤である。鼻粘膜、咽喉粘膜および皮膚を刺激するので注意を要

する。飲み下すと毒性がある。
DMDMヒダントイン(1,3-ジメチ
ロール-5,5-ジメチルヒダントイ
ン)

石けん、シャンプーなど、洗い流す
ことのできる製品だけに使用が認
められている、殺菌・防腐剤である。
毒性は弱い、アレルギー症状を引き
起こす可能性がある。

デヒドロ酢酸及びその塩類

防腐、防カビ剤としてシャンプー、
ヘアクリーム、歯みがきなどに用い
られる。毒性は弱い、アレルギー
症状を引き起こす可能性がある。飲
み下すと嘔吐・痙攣・肝臓機能障害
などの症状があらわれる。

天然ゴムラテックス

増粘剤、接着剤として練歯みがき、
脱毛剤、フェイスマスクなどに用い
られる。皮膚・粘膜を刺激する。発
疹・腫れ・水ぶくれ・腫れもの・眼の
障害などを引き起こす。

トウガラシチンキ

毛根刺激剤、頭皮刺激剤、止痒剤と
してヘアローションなどに配合さ
れる。皮膚を刺激する。飲み下すと
嘔吐・下痢・腹痛などの症状があら
われる。

dl- α -トコフェロール(酢酸トコフ
エロール)

ビタミンEである。皮膚に浸透して
末梢血管を拡張させ、皮膚の新陳代
謝を促進し、皮膚の老化を予防し、
皮膚の保護に効果を示す。毒性は弱
いが、アレルギー症状を引き起こす
可能性がある。

トラガント

ゴム様樹脂である。増粘剤、固着剤、
乳化および懸濁剤として利用され
る。アレルギー反応・皮膚炎を引き
起こす。飲み下すと腹痛・ぜんそく
などの症状があらわれる。

トリイソプロパノールアミン(プロ
ピルアルコール)

トリエタノールアミンの代替とし
て各種化粧品に用いられている。皮
膚を乾燥させ、ひび割れを生じさせ
る。

トリエタノールアミン(ラウリル硫
酸トリエタノールアミン)

脂肪酸と反応して、エタノールア
ミン石けんをつくり、良好な乳化剤
として広く用いられる。エモリエント
効果も得られる。皮膚・粘膜・眼を刺
激する。発がん性の報告がある。

トリクロカルバン(トリクロロカル
パニリド)

グラム陽陸菌に対する防腐、殺菌作
用をもつ。石けん、シャンプー、デ
オドラント製品などに用いられる。
毒性は弱い、アレルギー症状を引き
起こす可能性がある。

トリクロサン(トリクロロヒドロキ
シジフェニルエーテル)

防腐防カビ剤として使用される。毒

性は弱い、アレルギー症状を引き
起こす可能性がある。

トリクロロカルパニリド(トリクロ
カルバン)

グラム陽陸菌に対する防腐、殺菌作
用をもつ。石けん、シャンプー、デ
オドラント製品などに用いられる。
毒性は弱い、アレルギー症状を引き
起こす可能性がある。

トリクロロヒドロキシジフェニル
エーテル(トリクロサン)

防腐防カビ剤として使用される。毒
性は弱い、アレルギー症状を引き
起こす可能性がある。

ナ行

ニコチン酸ベンジル

毛根刺激、頭皮刺激剤、止痒剤とし
てヘアローションに使用される。ア
レルギー反応による発疹・かゆみ・
食欲不振・肝臓障害などを引き起こ
す。

ノニルパニリルアミド(ノニル酸パ
ニリルアミド)

毛根賦活剤として頭髮用化粧品な
どに使用される。成長遅滞・内臓機
能障害などを引き起こす。

ハ行

パラアミノ安息香酸エステル

紫外線を吸収する作用が強いので、
日焼け止めクリームに配合される。
アレルギー性湿疹を引き起こす。飲
み下すと嘔吐・かゆみ・発熱・肝炎な
どの症状があらわれる。

パラオキシ安息香酸エステル(パラ
ベン)

防腐、防カビ剤で、抗菌作用は広範
囲の微生物に有効とされる。環境ホ
ルモンの疑いがある。アレルギー性
湿疹を引き起こす。飲み下すと嘔吐
・かゆみ・発熱・肝炎などの症状が
あらわれる。

パラクローフェノール

殺菌消毒剤である。スキンクリーム、
化粧水、ヘアトニックなどに用いら
れる。皮膚・粘膜を強く刺激する。
多量に使い続けると中毒死する場
合がある。発がん性がある。

パラフェノールスルホン酸亜鉛

収れん剤として、アストリンゼント
ローション、ひげそり用トニックな
どに用いられる。毒性は弱い、ア
レルギー症状を引き起こす可能性
がある。

パラベン(パラオキシ安息香酸エス
テル)

防腐、防カビ剤で、抗菌作用は広範
囲の微生物に有効とされる。環境ホ
ルモンの疑いがある。アレルギー性
湿疹を引き起こす。飲み下すと嘔吐
・かゆみ・発熱・肝炎などの症状が
あらわれる。

ハロカルバン

殺菌剤として使用されている。毒性

は弱い、アレルギー症状を引き起
こす可能性がある。

PEG(ポリエチレングリコール/
平均分子量600以下のもの)

水に不溶性の物質を均一分散させ
る働きをもっている。毒性は弱い、
アレルギー症状を引き起こす可能
性がある。飲み下すと肝臓・腎臓障
害などの症状があらわれる。発がん
促進作用がある。

BHA(ブチルヒドロキシアニソール)

酸化防止剤であり、油脂に対し強い
酸化防止効果を示す。毒性は弱い、
アレルギー症状を引き起こす可能
性がある。飲み下すと歩行失調・潰
瘍形成・肝臓鬱血などの症状があら
われる。

BHT(ジブチルヒドロキシトルエ
ン)

酸化防止剤である。皮膚炎・過敏症
を引き起こす。飲み下すと体重低
下・脱毛・異常行動などの症状があら
われる。発がん性の疑い・変異原
性の報告がある。

PG(プロピレングリコール/ジブ
ロピレングリコール)

保湿剤として用いられるほか、可溶
化剤としても用いられる。また、抗
菌作用もある。皮膚毒性がある。飲
み下すと内臓障害。染色体異常・赤
血球減少などの症状を引き起こす。

2-[2-ヒドロキシ-5-メチルフェ
ニル]ベンゾトリアゾール

紫外線吸収剤として用いられる。毒
性は弱い、アレルギー症状を引き
起こす可能性がある。

ピロガロール

強い還元性を有する物質で、皮膚に
ながく使用すると刺激を伴い、紅斑
を生じる。化粧品では、サンタン、
養毛剤、染毛剤などに用いられる。

皮膚・粘膜への極度の刺激を与える。
多量に使い続けると中毒死する場
合がある。飲み下すと致死性がある。
フェノール(イソプロピルメチル
フェノール/イソプルピルメチル
エーテル)

強力な消毒殺菌剤である。各種の殺
菌消毒剤の効力判定の際の尺度で
ある、石炭酸係数の標準となってい
る。皮膚・粘膜を強く刺激する。皮
膚発疹を引き起こす。多量に使い続
けると中毒死する場合がある。発が
ん性がある。

ブチルヒドロキシアニソール(BH
A)

酸化防止剤であり、油脂に対し強い
酸化防止効果を示す。毒性は弱い、
アレルギー症状を引き起こす可能
性がある。

ブレドニゾン

「ホルモン」を参照。

ブレドニゾ

「ホルモン」を参照。

プロピルアルコール(トリイソプロパノールアミン)

トリエタノールアミンの代替として各種化粧品に用いられている。皮膚を乾燥させ、ひび割れを生じさせる。

プロピレングリコール(PG/ジプロピレングリコール)

保湿剤として用いられるほか、可溶化剤としても用いられる。また、抗菌作用もある。皮膚毒性がある。飲み下すと内臓障害。染色体異常・赤血球減少などの症状があらわれる。ヘキサクロロフェン

殺菌剤として、特に石けん類に多く配合されている。人により皮膚過敏症を起こす。小児への毒性が警告され、アメリカ合衆国は使用禁止の方針。

ベンザルコニウム塩酸塩(塩化ベンザルコニウム)

陽イオン性界面活性剤で、強い殺菌力を有する。眼に入るとアレルギー性結膜炎を引き起こす。

ベンジルアルコール

天然には多くの精油中に遊離のアルコール、またはエステルとして存在する。主としてシャンプー、石けん、そのほか一般の化粧品に用いられ、また、ジャスミン、チューベローズ、ライラックなどの花香料の調合料として用いられる。皮膚・粘膜を刺激・腐食する。飲み下すと腹痛などの症状があらわれる。

没食子酸プロピル

油脂類の酸化防止剤として用いられる。ほかの酸化防止剤と併用すると、相乗効果を示す。体重減少、成長遅滞、胃潰瘍。染色体異常の報告がある。

ポリエチレングリコール(PEG/平均分子量600以下のもの)

水に不溶性の物質を均一分散させる働きをもっている。毒性は弱いですが、アレルギー症状を引き起こす可能性がある。飲み下すと肝臓・腎臓障害などの症状があらわれる。発がん促進作用がある。

ポリオキシエチレンラウリルエーテル硫酸塩類

陰イオン性界面活性剤である。透明な高粘度のシャンプーに配合される。毒性は弱いですが、アレルギー症状を引き起こす可能性がある。

ポリオキシエチレンラノリン(ポリオキシエチレンラノリンアルコール)

非イオン性界面活性剤である。また、ラノリンと同様エモリエント剤としての性質をもっている。毒性は弱いですが、アレルギー症状を引き起こす可能性がある。

ホルモン(エストロゲン・エストラジオール・エチニエストラジオール・酢酸コルチゾン・ジエチルスチ

ルベストロール・ブレドニゾン・ブレドニゾン・卵胞ホルモンなど)医薬部外品(薬用化粧品)に配合されるホルモン類は、卵胞ホルモン、副腎皮質ホルモンに限定されている。さらにそれらの種類、使用量などについては、基準が定められている。薬理作用の激しい医薬品で、重大な副作用や発がん性がある。

マ行

ミリスチン酸イソプロピル(IPM)

化粧品用油性原料の代表的なものである。色素、香料などの溶剤、保留剤としても使用される。毒性は弱いですが、アレルギー症状を引き起こす可能性がある。

紫色201号・紫色401号

「タール色素」を参照。

2-メチル-4-イソチアゾリン-3-オン(5-クロロ-2-メチル-4-イソチアゾリン-3-オン)

殺菌、防腐の目的で洗い流す化粧品(シャンプー、リンス、石けん、洗顔料)に使用される。毒性は弱いですが、アレルギー症状を引き起こす可能性がある。

メトキシケイ皮酸オクチル

紫外線吸収剤である。皮膚を刺激し、アレルギー性皮膚発疹を起こす。

没食子酸プロピル

油脂類の酸化防止剤として用いられる。ほかの酸化防止剤と併用すると、相乗効果を示す。体重減少、成長遅滞、胃潰瘍。染色体異常の報告がある。

ラ行

ラウリル硫酸塩類(AS)

陰イオン性界面活性剤である。油脂を乳化する作用を持ち、洗浄作用、起泡性があり、シャンプーなどに利用されている。皮膚が乾燥して荒れる。毛髪の発育障害・視力低下・白内障を引き起こす。

ラウリル硫酸トリエタノールアミン(トリエタノールアミン)

脂肪酸と反応して、エタノールアミン石けんをつくり、乳化剤として広く用いられる。エモリエント効果も得られる。皮膚・粘膜・眼を刺激する。発がん性の報告がある。

ラウロイルサルコシンナトリウム

陰イオン性界面活性剤である。発泡剤、洗浄剤、殺菌剤、乳化剤として使用される。毒性は弱いですが、アレルギー症状を引き起こす可能性がある。

ラノリン(ラノリンアルコール・液状ラノリン・還元ラノリン・硬質ラノリン・水素添加ラノリンアルコール)

羊毛に付着している分泌物を精製して得られるロウ類の油性原料で

ある。接触性皮膚発疹・アレルギー性皮膚炎を引き起こす。

ラノリンアルコール

ラノリンをけん化した残りの不けん化物である。すぐれた保水性を有し、乳化剤として各種クリーム、ローション、口紅などに用いられている。毒性は弱いですが、アレルギー症状を引き起こす可能性がある。

ラノリン脂肪酸イソプロピル

ラノリンをけん化分解して得たラノリン脂肪酸とイソプロピルアルコールとのエステルである。エモリエント性、乳化性、顔料分散性を有する。毒性は弱いですが、アレルギー症状を引き起こす可能性がある。

ラノリン脂肪酸ポリエチレングリコール

乳化力のすぐれた非イオン性界面活性剤で、エモリエント剤、加脂肪剤、帯電防止剤として使用されている。毒性は弱いですが、アレルギー症状を引き起こす可能性がある。

レゾルシン

殺菌、防腐の目的で使用される。また、表皮剥離作用および止痒作用がある。皮膚・粘膜を刺激する。チアノーゼ・昏睡・腎臓障害を引き起こす。敏感症やアレルギー症の人は、使用すると中毒死する可能性がある。

ロジン

ネイルエナメルやヘアスプレーなどに、増粘・皮膜剤として用いられる。皮膚・粘膜を刺激する。接触皮膚炎を引き起こす。

ただし、化粧品に含まれる毒性成分はこれだけではありません。表示指定成分には指定されていませんが、パラフィン、フロンガス、コロイドイオウ、乳酸、メントール、カオリン、ゲンジョウ、酸化チタン、ソルビット、ベンガラ、アシルグルタミン酸、アライトイン、グリシルレチネート、スクワラン、胎盤抽出液(プラセンタリキッド)、天然色素、動物・植物抽出液、パンテノール、ビタミン類、ロウなどにも、アレルギー反応を引き起こす可能性があるとする研究結果が報告されています。

もちろん、ココ・ボーテグループ各店では、表示指定成分だけではなく、現時点で肌への有害性が疑われる成分が配合されている化粧品は、いっさい使用しておりません。

COCO
ESTHÉTIQUE
BEAUTÉ

ココ・ボーテグループ本部
(株)ココ・プライド

エステティック事業部

〒189-0014 東京都東村山市本町

1-21-7-102

TEL&FAX.042(395)9293

URL <http://www.coco-beaute.com>